



# やまな

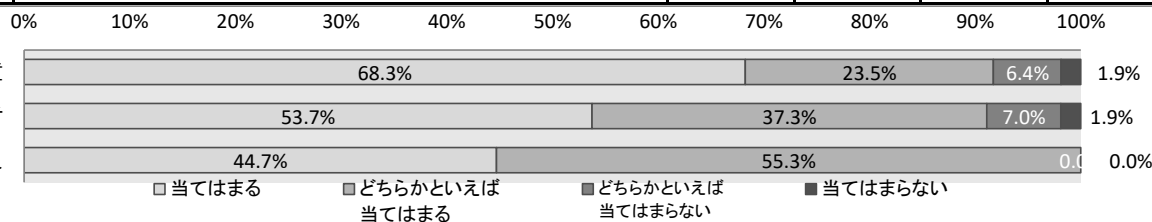
周南たちばな学園  
袋井市立山名小学校  
学校だより  
令和4年10月7日発行

山名小学校の教育活動に関する調査（7月実施）のまとめ（概要版）

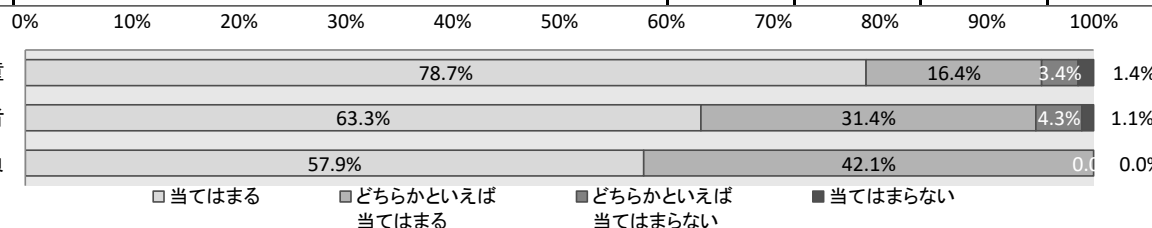
7月に実施した本年度1回目の山名小の教育活動に関する調査の結果がまとまりましたので、御報告いたします。調査への御協力、またたくさんの御意見をいただき、誠にありがとうございました。

## ○三者（児童・保護者・教職員）共通の質問事項の結果一覧

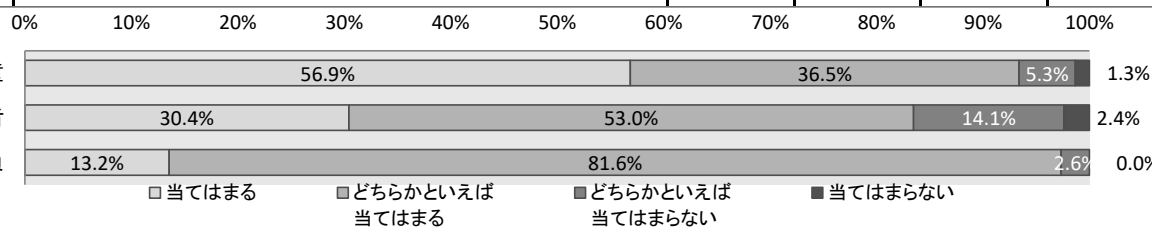
質問1		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
児童	学校(がっこう)が楽(たの)しい	68.3%	23.5%	6.4%	1.9%
保護者	子どもは、学校が楽しいと感じています。	53.7%	37.3%	7.0%	1.9%
教職員	子どもたちは、学校が楽しいと感じていると思う。	44.7%	55.3%	0.0%	0.0%



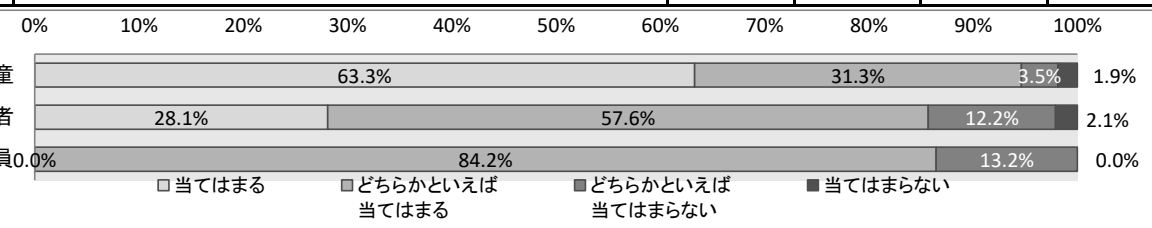
質問2		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
児童	みんなで何(なに)かをするのは楽(たの)しい	78.7%	16.4%	3.4%	1.4%
保護者	子どもは、みんなで何かするのは楽しいと思っています。(行事、グループ活動、チームでのゲームなど)	63.3%	31.4%	4.3%	1.1%
教職員	子どもたちは、みんなで何かするのは楽しいと思っている。	57.9%	42.1%	0.0%	0.0%

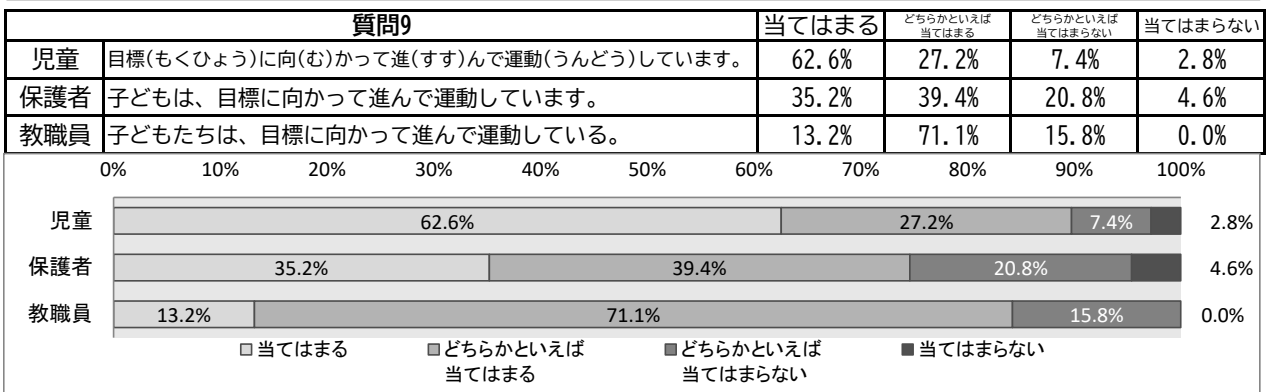
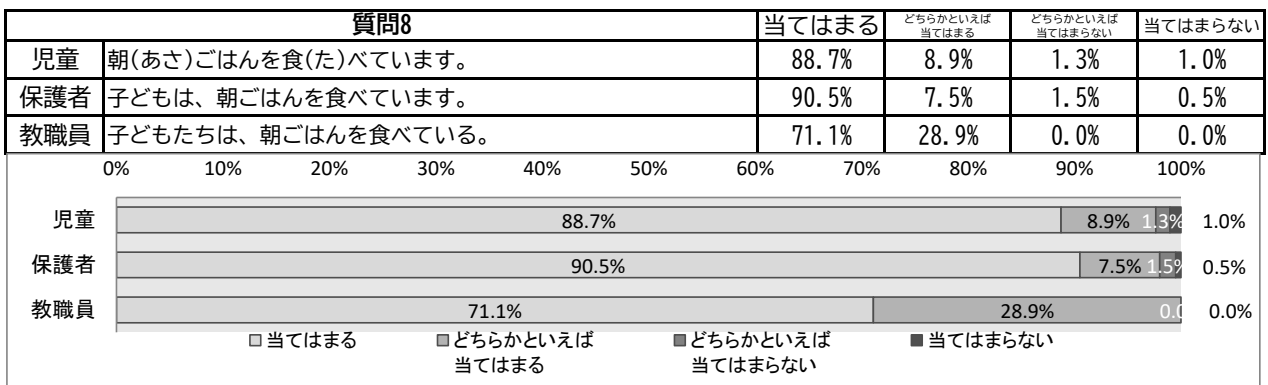
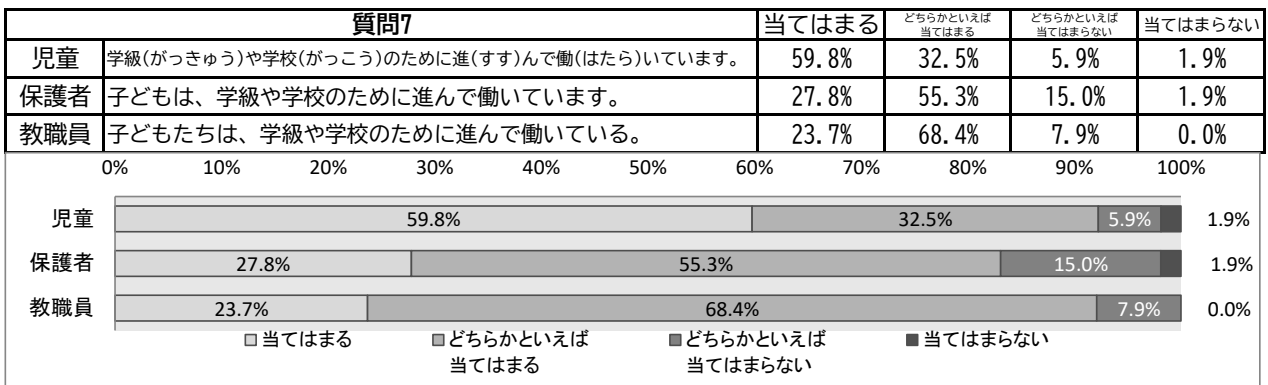
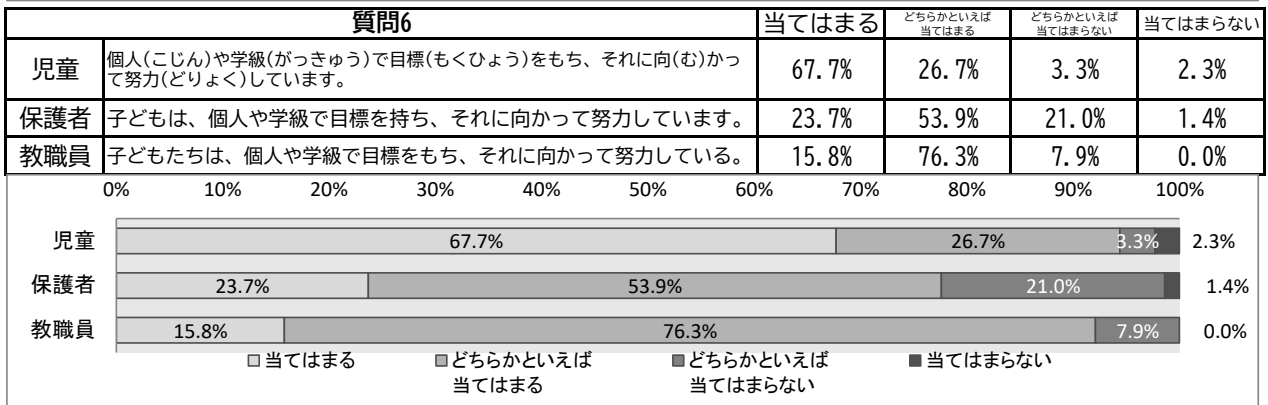
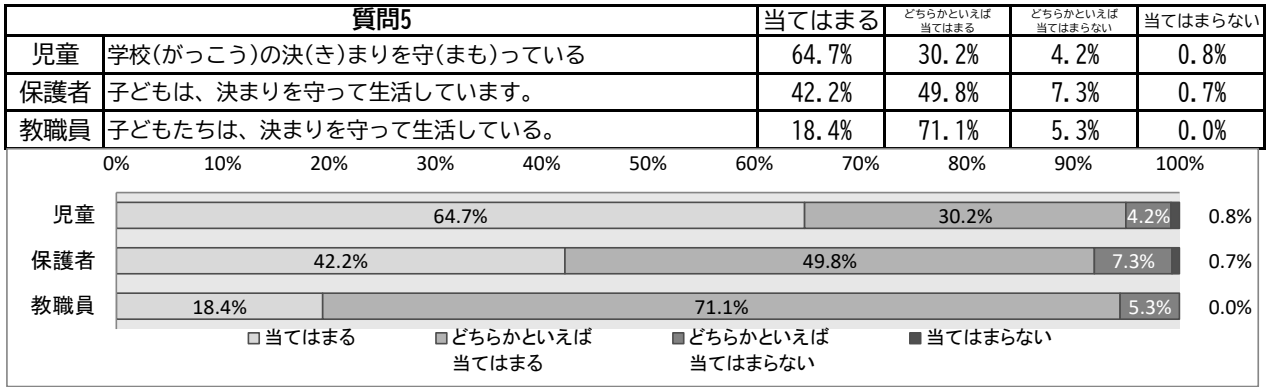


質問3		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
児童	授業(じゅぎょう)に主体的(しゅたいてき)に取(と)り組(く)んでいる	56.9%	36.5%	5.3%	1.3%
保護者	子どもは、授業に主体的に(自分から進んで)取り組んでいます。(聴く、話す、考えるなど)	30.4%	53.0%	14.1%	2.4%
教職員	子どもたちは、授業に主体的に取り組んでいる。	13.2%	81.6%	2.6%	0.0%

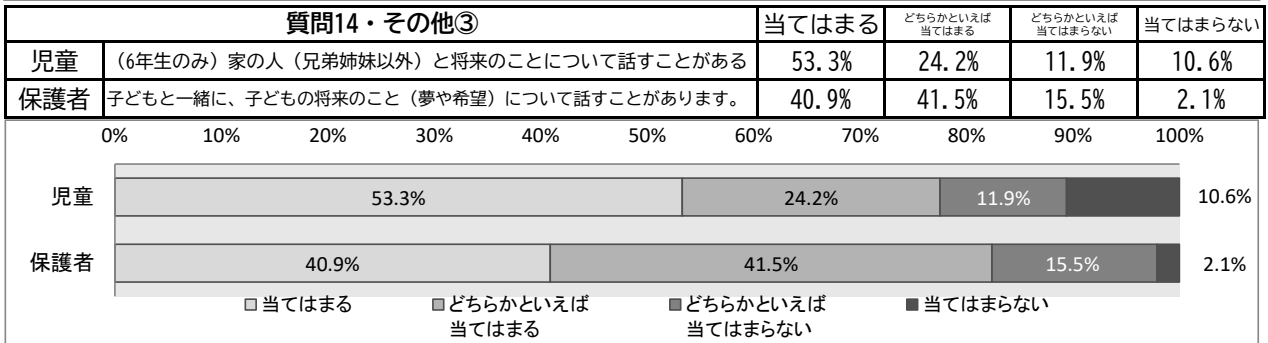
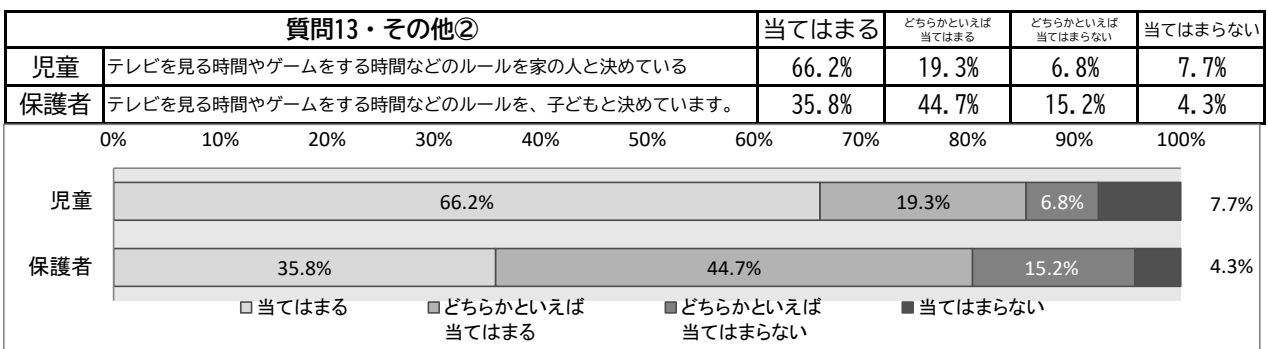
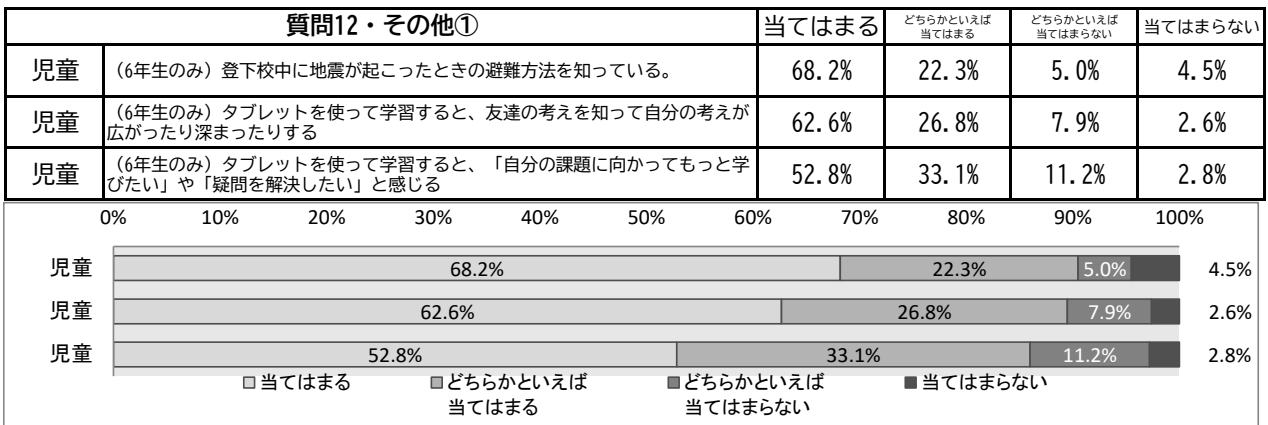
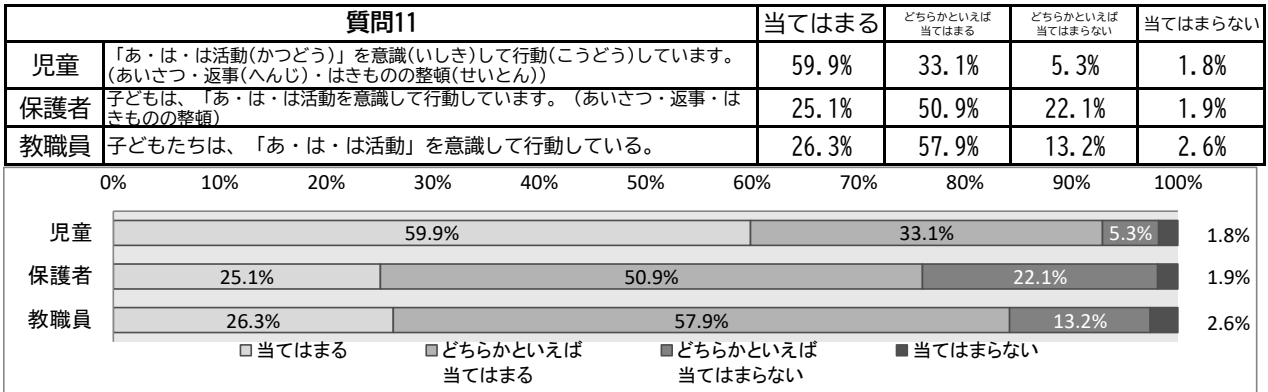
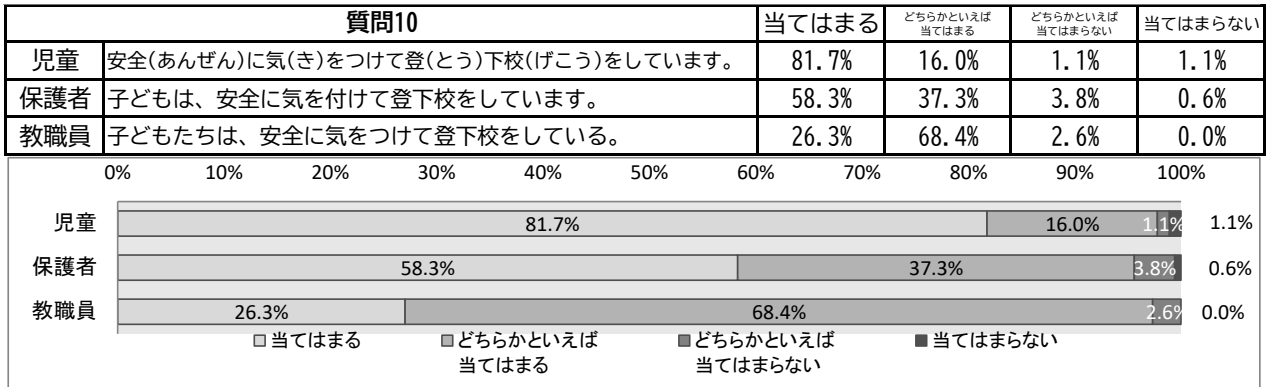


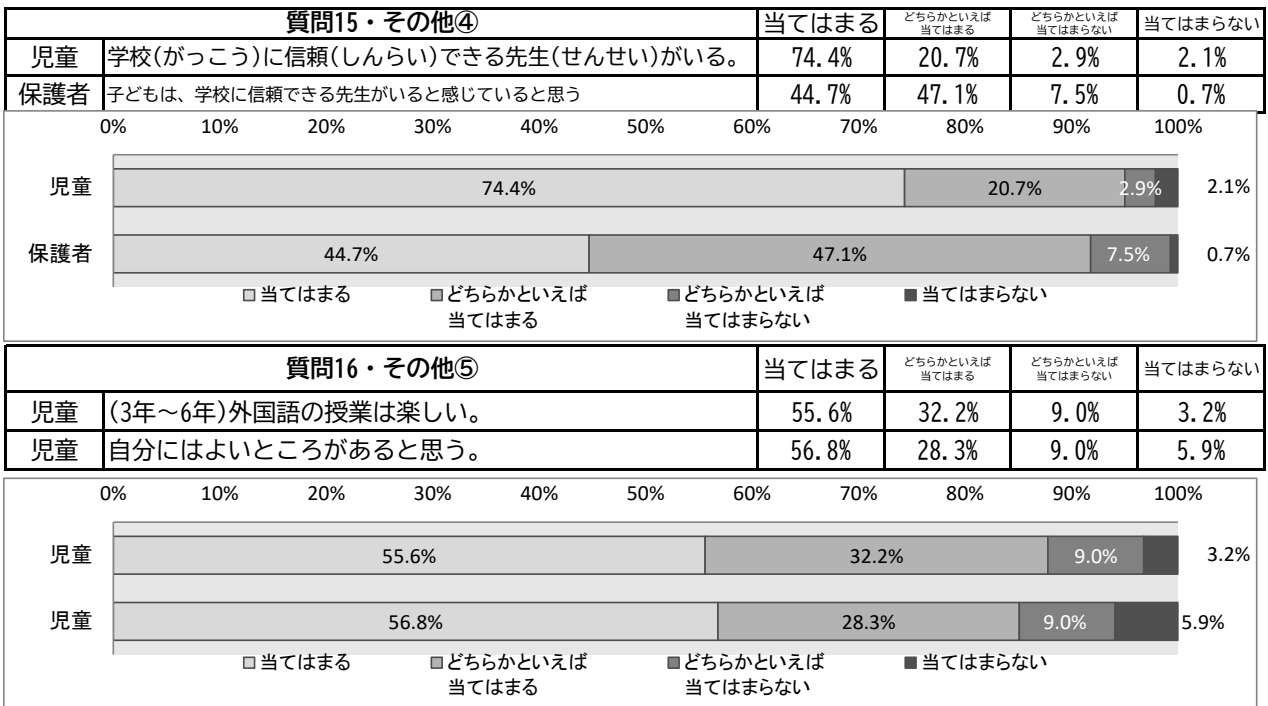
質問4		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
児童	授業(じゅぎょう)がよく分(わ)かる	63.3%	31.3%	3.5%	1.9%
保護者	子どもは、授業がよくわかっています。(分かった・なるほど・できるようになった などと感じる)	28.1%	57.6%	12.2%	2.1%
教職員	子どもたちは、授業がよく分かっている。	0.0%	84.2%	13.2%	0.0%





令和4年度 第1回学校評価 三者比較一覧





### 1. アンケート結果について

本アンケートは、市の教育施策がどうであるかを検証するためのものでもあります。そのため、袋井市の教育が目指す子ども像「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す15歳」の評価指標を含め、4 択の「当てはまる」の数値に着目して評価を行いました。全体的には子どもたちの自己評価は高く出ています。

質問 1～4 については、周南たちばな学園として、「授業に主体的に取り組む」児童の姿を大切にするため、教員が「袋井市型の授業」の実践を通して授業改善に取り組んでいるところです。「授業がよくわかる」、「みんなで何かするのは楽しい」、「学校が楽しい」という設問は相互に密接に関連しています。そこで、今後もさらなる授業改善を進め、互いの思いや考えを伝え尊重し合い、学び合いながら「わかった」「できた」を増やし、みんなで学力を高めたいと思います。

また、学校行事においても、子どもたちの思いや考えを聞きながら進め子どもたちとともに作る行事運営を心がけていきます。子どもたちは活動を通して、充実感や満足感、自己肯定感を味わうことができると、「次もやってみたい」という思いになります。そして、このような体験を繰り返しながら、子どもたちの主体性を育てていきます。このことが「自分には良いところがある、必要とされている」という自己有用感(自分に対する自信)を育てることにつながっていきます。

質問11は、本校で大切にしている「あ・は・は」活動についてです。この設問については「当てはまる」と回答した割合が他の設問より若干低くなっており、特に「あいさつ」についてはもっと高めることができるだろうと考えています。職員があいさつに関する指導を共有し、「あ・は・は」活動を実践する子どもたちの姿を認めて全体に広げることで、元気にあいさつできる子を増やしていきたいと考えています。

6年生が行った「全国学力・学習状況調査」の結果からも明らかになっていますが、「1日の中でどのくらい時間テレビゲームをするか」や「どのくらい携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をするか」に対する回答結果から、1日の中で長い時間メディアに触れている子が多くいることがわかりました。実際、設問13を見ると「当てはまる」に回答した割合がやや少ないと感じます。メディアに対するつきあい方やそのモラルについて学校では指導します。御家庭では、その使い方やルールについてお子さんとよく話し合い、見届けをしていただきたいと思います。子どもたちが適切な範囲の中で上手なつきあい方ができるよう、学校と家庭で相互に連携していきましょう。

## 2. 今後の取り組みについて

▶「袋井市型授業づくり」を推進し、子どもたちの「できた!」「わかった!」が感じられる授業づくりを進めていきます。

- ① 子どもたちが考えたいくなるような「?」型の学習課題を設定する。
- ② 授業の中で、学びを深めるためのツールとしてICT機器を有効活用する。
- ③ 子ども同士の対話や交流を通して、自らの考えを深める。
- ④ 学習課題に対して、授業を通してわかったことや考えたこと等をその時間の振り返りとして書く時間を設定する。

まずは、「あれ?」「なんで?」「どうして?」が感じられる導入と課題の設定を工夫し、子どもたちの主体的な学びへ導きます。授業の終末には、その時間で何がわかったのか各自で整理しを書くことで、知識としての定着を図るとともに、自分の考えをまとめ書く力の育成にもつなげます。

▶「あ・は・は活動」の継続と「あいさつ」運動のを強化します。

特に「あはは活動」のあいさつの部分に力を入れて取り組みます。「あいさつ返しができる子」を増やすことをねらいとした取り組みを全職員で共有し、実践につなげます。

▶委員会活動を活性化させ、委員会活動の充実を図ります。

6年生が中心となっている委員会をさせるために、定期的に委員長会を開催し、委員長の不安や悩みや委員会事の取り組み、開催イベントを共有し、見通しをもちながら委員会活動が行われるようにします。そして、各委員会が開催するイベントの日程調整等をゆだね、子どもたちが考え、計画するようにします。そうすることによって、委員会活動の充実を図り、子どもたちの主体性を育成していきます。

本内容について、学校ホームページ(<https://yamana-e.fukuroi.ed.jp/>)の「学校評価」に掲載されます。

担当：主幹教諭(村松史紀)  
電話：48-6295